

(2)各事業における施設整備の方向性

■道路

北海道の「食」や「観光」を担う地域が有する潜在力を活かし、国内最大の食料供給基地としての持続的発展や満足度の高い観光地を形成するためには、安定的な物流や広域周遊観光を支える道路整備が必要不可欠です。

しかしながら、こうした地域産業を支える本道の道路交通を取り巻く環境は、高規格道路におけるミッシングリンクをはじめ、自然災害に伴う交通障害、幹線道路や通学路における交通事故、道路施設の老朽化、物流の2024年問題など多くの課題を抱えています。

こうした課題を解消し食やデジタル関連などの産業を支援するため、地域と一体となって、国に対して高規格道路の整備について積極的に要望するとともに、高規格道路へアクセスするインター線の整備や災害に備えた道路交通環境の整備、通学路等の交通安全対策、老朽化対策などを着実に進め、本道の道路ネットワークの整備推進に向けて取り組めます。



ひがしかぐら

高規格道路 旭川東神楽道路（旭川市・東神楽町）



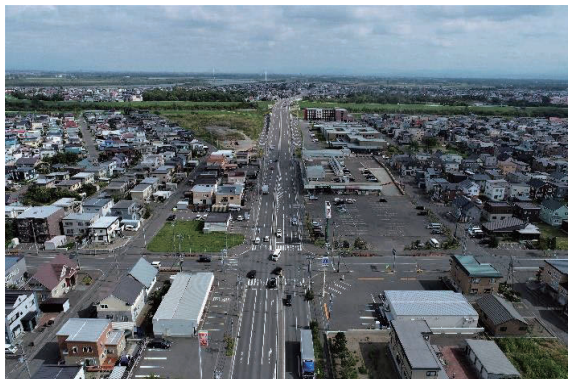
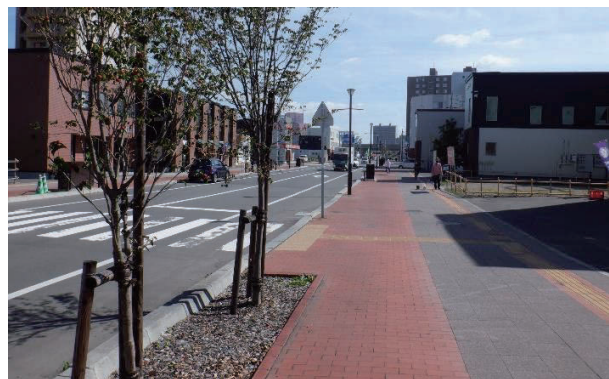
道道 増毛稲田線（妹背牛町・深川市）

■都市計画道路（街路）

都市計画道路（街路）は都市計画に位置づけられた市街地の中の道路であり、市民生活や経済活動等に伴う自動車交通等を円滑に処理するだけでなく、市民が散歩を楽しんだり、祭りやイベントが開催されるなど、人々が集う市街地の最も基礎的な公共空間です。

北海道の都市計画道路は約5,000kmであり、改良率は全国を上回る約8割となっていますが、まちづくりと一体となったバリアフリー化や無電柱化等が必要となっています。

道では、北海道新幹線開業に合わせた駅前広場などの交通結節点整備や、防災性の向上を図るため無電柱化の推進に向け、市町村等と連携して取り組めます。

都市計画道路 南大通
（江別長沼線）（江別市）都市計画道路 8丁目通
（野幌停車場線）（江別市）

■河川

近年、全国的に豪雨災害が激甚化・頻発化しており、本道においても、各地で局地的な豪雨により、中小河川の氾濫被害が発生するなど、治水対策の重要性がますます高まっています。

このため道では、洪水により家屋や農地などに大きな被害が発生した箇所や甚大な被害が生じる恐れのある市街地の河川などを優先して整備を進めています。

今後の気候変動の影響なども考慮し、あらゆる関係者が協働して流域全体で治水対策を行う「流域治水」の取組を進めるとともに、近年浸水被害が生じた地域では、必要に応じ河川整備計画を見直し、洪水を一時的に貯める遊水地などの整備を進めていくほか、河川整備にあたっては、氾濫の危険度が高い区間を先行して整備するなど、早期に治水対策の効果を発現させるよう取り組みます。また、豊かな水辺環境の創出・保全にも配慮し、総合的な治水対策を推進します。



あっさぶ
厚沢部川（厚沢部町）



とねべつがわ
利根別川（岩見沢市）

■砂防

近年、全国的に記録的な大雨等による大規模な土砂災害が頻発化している中、本道においても、平成28年連続台風や平成30年北海道胆振東部地震等により、土砂災害による建物の損壊といった被害が発生しており、対策の重要性が高まっています。

道では、これまでも土砂災害から道民の命や財産を守るため、近年災害が発生した箇所や病院、高齢者施設、幼稚園などの要配慮者利用施設などが立地する緊急性の高い箇所を優先して、土砂流出を抑制するための砂防堰堤やがけ崩れを防止するための法枠などの整備を進めているほか、土砂災害の危険性や避難の重要性などの周知にも取り組んでいます。

引き続き、砂防関係施設の整備や土砂災害に対する住民理解の向上などに努め、安全で安心な暮らしが守られるよう、ハード・ソフト一体となった土砂災害対策を推進します。



開成峠左3の沢川 砂防堰堤（北見市）



十勝岳 火山砂防施設（上富良野町）
親と子の砂防見学会の様子

■ 海岸

近年、全国的に台風や低気圧による高潮が各地で発生している中、本道においても2014年に根室沖で発生した爆弾低気圧による高潮により住宅地などへの浸水被害が発生しており、海岸保全対策の重要性が高まっています。

道では、これまでも波浪や高波などの災害から人命や財産を守るため、海岸保全施設の整備を進めているところです。

また、地球温暖化の影響による平均海面水位の上昇などの影響や、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・津波が切迫している状況などを踏まえ、L1津波※による被害が発生する恐れのある地区などにおいて、護岸の整備や嵩上げ等の対策を推進します。

※L1津波：発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波



浜中海岸（浜中町）



どくいさき
度杭崎海岸（森町）

■ 都市公園

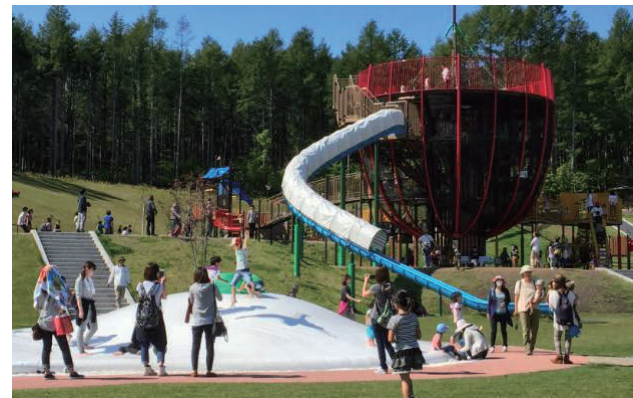
道立広域公園は、道民の広域的なレクリエーション需要に応え、余暇活動や健康増進、子育て支援などに寄与するとともに、地域振興においても重要な役割を担っています。

これまで道が整備した11公園では、設置後20年を経過した公園が6公園あるなど施設の老朽化が進行していることから「道立公園施設長寿命化計画」に基づき、施設ごとの計画的な補修等を行っております。

今後は、公園の更なる利用促進を図るため、老朽施設の更新、利用者ニーズを反映した施設の配置、民間活力の導入などについて検討しながら、より魅力あふれる公園となるよう取り組みます。



野幌総合運動公園（江別市）



オホーツク公園（網走市）

■下水道

北海道の汚水処理の普及率は、全国平均よりも高い水準にあるものの、いまだ水洗化されていない地域もあることから、道民の生活向上を図るため未普及解消対策を進めているほか、ストックマネジメント計画に基づく改築更新、大規模地震や大雨などによる水害に備えた下水道施設の耐震化・耐水化など、下水道施設の計画的な維持管理・更新を行っています。

近年、いわゆるゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な大雨などが頻発し、都市部における浸水被害リスクが高まっていることから、雨水管渠整備などのハード対策と内水ハザードマップ作成などのソフト対策の両面から市街地浸水対策に取り組んでいます。

また、下水道の持つ資源・エネルギーに着目し、下水汚泥のコンポスト（汚泥堆肥）化による緑農地利用や消化ガス発電※などの取組も行っております。

今後は、下水道事業運営の効率化を図り、持続可能なものとなるよう、バイオマスを含めた複数の汚水処理等施設と下水道施設の広域化・共同化事業を積極的に進めていく予定です。

※消化ガス発電：下水処理場で回収した下水汚泥を消化タンクに投入した時に発生するメタンガスを利用して発電する仕組み



老朽化したし尿受け入れ施設の整備（余市町）



奈井江浄化センターの消化ガス発電設備（石狩川流域下水道）

■公営住宅

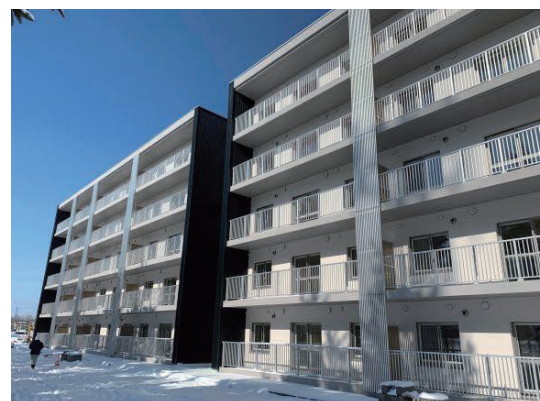
本道では、人口減少や高齢化の進行、地域コミュニティの衰退、気候変動問題を踏まえた脱炭素化など、住生活を取り巻く様々な課題への対応が求められています。

道では、公営住宅の建替・改善により子育て・高齢者世帯の居住水準の向上を図るとともに、公営住宅等の集約によるコンパクトなまちづくりを推進しているほか、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、ZEH※水準の断熱・省エネルギー性能を満たす道営住宅を整備しています。また、新たに、再生可能エネルギーの積極利用を図っている市町村と連携したゼロカーボンモデル道営住宅の整備にも取り組みます。

※ZEH：ネット・ゼロ・エネルギーハウス



道営住宅であえーるまほろば第二団地（余市町）



道営住宅しらかば南団地（苫小牧市）